

講座名：令和7年度 人とゆたかにつながる講座

日時：11月29日(土)13時～14時30分 参加者20名

テーマ：「聴覚障がいについて理解を深めよう」

講 師：熊取町聴力障害者協会 代表 中村 容子 さん

大阪手話通訳問題研究会泉州ブロックのみなさん

場 所：すまいるズ 煉瓦館 講義室A

概 要：【前半】熊取聴力障害者協会 代表 中村さんからのお話

ろう者である講師の中村さんの生い立ちの話を聞いていただきました。講師の話を大阪手話通訳問題研究会泉州ブロックのみなさんが通訳をしてくださいました。

中村さんの当時の出身地である和歌山県では、ろう学校が1ヵ所しかなく、幼稚部から小・中・高・専攻科まであり、母親とバスで通学し、母親も学校が終わるまで待っていたとの話がありました。また、当時の教育では手話は禁止され、口話中心の教育環境であったため、文章でのやり取りが苦手な人が多く、物などの名詞は理解できても、動詞がわからなく、社会に出ても口話は役に立たなかった。手話があれば、言葉や認識の誤りなどがなく、困らなかったと思うと話されていました。熊取町で平成28年度に制定された「手話言語条例」には中村さんにご尽力いただきました。中村さんから、手話言語条例が制定された後では、熊取町に登録通訳士が増えたことで、病院や買い物に行く時など便利になったこと、「手話」という言語があるということが浸透され、大きく変化をもたらしたと話されていました。

【後半】大阪手話通訳問題研究会泉州支部の皆さんのお話、手話講座、質問タイム

所属団体での活動内容や、通訳者を目指したきっかけなどをお話しいただきました。また、受講者の皆さんに、理解しづらい口話での単語の説明や、簡単な手話講座も行っていただきました。中村さんからは、手話が上手にできなくても、困っている時には助けてほしいこと、特に災害時の避難所での生活に対する不安や課題などについて、見た目ではわからないろう者へは、スマホでの筆談や音声を読み込んでの文字起こしなどを活用してほしいと話していました。さらに身振りや手話だけでなく、表情も大切との説明がありました。受講者の皆さんからは、ろう者に対しての対応はどうしたらいいのか、何に気をつけばいいのか等熱心な質問があり、あっという間に終了しました。



